



たもんじ 交流農園 便り

2026年3月号



Vol.96

たもんじ交流農園のみなさんへの期待と

これからの活動への提言

吉野家住宅主屋及び表門 家守 吉野潤一



緑と花の学習園のソメイヨシノを指さす吉野さん

たもんじ交流農園は、伝統野菜「寺島なす」を通して、多世代の方々が土に触れて、地域の歴史文化を共有する稀有な空間と考えます。みなさんの活動は「農」に触れる場に留まらず、農園を訪れる方々と「農」を通して多様な関係を構築する力があります。この「力」を、墨田区全体に広げて頂きたいと思います。

現在の墨田区の「みどり率（樹木や草地に加え、河川などの水面や公園の敷地面積を含んだ面積の割合）」は、20.7%です。直近のデータにおいて23区中22位（中央区と同率最下位）です。この比率向上は、

防災と環境負荷低減の観点から、喫緊の課題です。行政主導の植樹には限界があります。「区民が主体的に緑を育てる文化」の醸成と定着が、解決策になると考えます。

現在、墨田区は「緑と花の学習園」（以下、学習園と表記）を環境学習機能向上のために改修を準備中です。公的空間の学習園に、たもんじ交流農園のみなさんの知見を提供し、以下の施策を行政と共に推進する提案を申し上げます。

1. 「寺島なす」をシンボルとした緑化推進による「育てる景観」の共創

- 学習園で「苗」を育成し、区内の飲食店、商店、商業施設の軒先や路地尊※での設置を、助成金制度の併設とともに区へ提案します。墨田区ならではの「紫色の実が育つ景観」を創出し、地域ブランド化を実現します。
※路地尊 https://www.city.sumida.lg.jp/kurashi/kankyuu_hozen/amamizu/riyou/rozison.html#:~:text=
- 学習園内に区民自主管理の「農」空間を新設し、みなさんが講師となって栽培技術を区民へ提供、区民は鉢や苗のオーナーとして各自の鉢植えや区画の苗を育て、収穫期に学習園は「寺島なす調理試食会」を複数回主催します。

その「緑と花の学習園」に行ってきました!!



緑と花の学習園(文花 2-12-17)は昭和56年4月開園、植物を「見て」「学び」「相談」できる墨田区の施設です。3/21(土)すみ里プロジェクトメンバー他希望者11名で訪問、「緑と花のサポーター」の門倉さん・石井さんに施設の概要や区画ごとの植物についてご案内を頂きました。開園時間は9:00~16:00、自由に見学できます。

2. 区民参加促進「緑の自分事化」施策

- 区は、学習園や家庭での緑化活動に対するポイント付与制度を導入します。
- 区は、みなさんを認定緑化サポーターとして認定し、緑化に取り組む区民への、出張アドバイス実施の支援を担います。

以上、学習園を活用して、区内各所に「すみ里」を育てましょう。

人と人、そして人と土をつなぐ輪が、墨田のまちに広がっていくことを願っています。

自根苗の育成栽培に挑戦！ 今年の「寺島なす」大ピンチ！



2/22 種植えする坂本さん

これまで毎年5月の販売や、たもんじ交流農園での栽培に用いてきた「寺島なすの接ぎ木苗」は、三鷹の農家さんから仕入れてきたものですが、今年はその苗がネズミ被害の影響を受け、全滅する事態となったとの連絡を受けました。そこで現在、たもんじ交流農園では、たもんじ産の自根苗500株強の育成に挑戦しています。

これまでも共用耕作地では数十本の自根苗で「たもんじ産寺島なす」を育ててきた実績があり、その知見と経験を活かしながら、これまで以上に愛情を注いで大切に育てていきます。みんなで復活させた幻のなす、墨田区名産「寺島なす」。その命を未来へつないでいくために、新たな一歩を踏み出しました。引き続き、あたたかいご声援をよろしくお願いいたします(小川記)。



3/14 現在、今のところ順調

思わずビンゴっ!! 抽選の結果、二組の新しい仲間が誕生!



3/1(日)、ハーフ1区画・可動式プランター1区画の抽選会が行われ、二組の新しい農園の仲間が誕生しました。

これまで様々な方法で行われてきた抽選会ですが、今回の抽選方法は「ビンゴゲーム」! 抽選会会場に参加された応募者はご本人が、参加されなかった応募者はプラカードを下げた代理人が、それぞれビンゴカードを持ち、真剣勝負に臨みました。そして厳正な!?「ビンゴゲーム」の結果、ハーフ1



区画は宇田川さんが、可動式プランター1区画は伊藤さんが、それぞれ自らの運を引き寄せました。両名のご紹介は次号から。みなさん、よろしくお願いいたします。(末林記)

また、はじめました!!

第10回 高尾さん(区画10-1)の場合



また、本を読むことを始めています。小説を読むことが好きで、時々思い立つと読んでいたのですが、仕事と家事、子育てに介護で(を理由に)本から離れていました。また、活字を見ることが鬱陶しく、仕事以外では字を見ることが嫌になったという理由もあります。小説を読んでいたある時、字が欠けて見えない部分があることに気づきました。緑内障です。症状は右眼だけで、進行はそれ程は早くないのですが、鏡の前で片目を閉じると、自分の顔の目のあたりが欠けるので(普段からしないのですが)アイシャドウができません(苦笑)。

それでも10年以上経つと、見ることに慣れてきて、今は仕事以外から解放され、特に夜に時間を持て余すようになり、時々小説を読むようになってきています。数ヶ月前、ソラマチの本屋で「ほどなく、お別れです」

を取り、今4巻目を読んでいます。舞台は墨田区。葬儀社に勤める主人公が、いろいろなお別れと関わりながら成長していくお話です。聞き慣れた地名や建物が出てくるので、頭の中であそこかな、ここかなと思い描くことも楽しく読めます。映画化されていますが、号泣必至なので観ていません。感想は人それぞれなので、興味がありましたらお貸しします。本を読む時間を、これからも大切にしていきたいと思います。



“てらたま農園部から”

第51回～じゅんなま研さん、ありがとう!～



3/1(日)、福岡から循環生活研究所(略称:じゅんなま研)の皆さんが来園。東京に研修に来たついでに、たもんじ交流農園を視察に来られたとのこと。牛久さんがコンポストの説明をしているところに、私たちも便乗。日頃、疑問に感じていることを伺いました。じゅんなま研の皆さんは実践を通じてのプロ集団で、洋服の汚れるのも構わず、コンポストを混ぜながら懇切丁寧に解説してくださいました。おかげでこれまでの疑問が一気に解決し、スッキリ!

農園コンポストの手入れについて。空気と水分が必要で、米ぬかも適度に足します。基本は踏みつけず、柔らかい葉や茎はフォークでならします。硬くて太い枝は細かく切って少し踏みつけ、空気の空間を小さくします。野菜くずは窒素が多く、放線菌や好気性細菌が一気に増えて温度が急上昇します。温度が上がってきた直後は酸素が減り、分解しやすい部分が消費されています。そこで攪拌することで酸素が入り、未分解部分が中心に入って再び温度が上がります。加熱→攪拌→再加熱のサイクルです。

【注意】温度が上がりにくくなる前に混ぜると勢いを止めることがあるため、ピークを少し越えた頃に攪拌します。

落ち葉床(腐葉土づくり)について。米ぬかは最初に入れるだけでよく、乾燥させないことが大事です。温度が下がったら攪拌して空気を入れます。落ち葉は分解が遅いため、温度が下がる=酸素不足、または分解の停滞を意味します。攪拌することで菌が再配置され、空気が補給されると、また温度がじわっと上がります。最後に、農園で去年作った腐葉土を見ていただくと、見事完成しているとのこと、自信を深めました。(ただ、既に無くなりましたが)聞いたお話を簡単にまとめました。こうした「循環生活」を日常に取り入れることができれば素敵ですね。まずは農園で定着させていきましょう。

種類	主成分	発酵の型	特性	用途
生ごみ(野菜くず)	窒素	高温発酵型	栄養豊富	肥料
落ち葉床(腐葉土)	炭素	ゆっくり発酵型	栄養はない	土壌改良
農園のコンポスト	窒素・炭素		肥料・土壌改良の両方の役割を果たしている	

第一期江戸東京野菜チャレンジャー会員始動!



「土に触りたい、自然と戯りたい、農作業を体験してみたい!」そんな想いから生まれた「江戸東京野菜チャレンジャー会員」。会員の皆様が話し合っ、主体的に作業して、「江戸東京野菜」を栽培・育成する、たもんじ交流農園としても初の試みとなるこの取り組みが、3/14(土)、いよいよスタートしました。

当日は、チャレンジャー会員の皆様6組13名(ご家族含む)にお集まりいただき、初顔合わせののち、農園の心得や使用契約書等のご説明を行った後、亀戸大根など江戸東京野菜の収穫や、寺島なす栽培に向けて耕運機を使った土づくりに汗を流していただきました。さらに、収穫したばかりの江戸東京野菜をのせたピザを窯で焼き、皆で囲んで楽しい時間を過ご

しました。笑顔があふれ、これからの活動への期待が感じられる一日となりました。

今後は、夏に向けては寺島なすを中心に、畝づくりや苗の植え替え・剪定・収穫などに取り組むほか、水やりや追肥、コンポストの活用なども学びながら実践していきます。秋・冬・春には季節ごとの江戸東京野菜の栽培にも挑戦していきます。また、農園アドバイザーの水口先生による「土についてのお話」をはじめ、「土作りの大切さ、害虫対策、堆肥と肥料、江戸東京野菜のお話」などなど、毎月一度の講座も予定しています。一年間限定の会員制度ではありますが、現在も引き続き募集中です。ご興味のある方は、ぜひ、一緒に江戸東京野菜を楽しく育てて、美味しく味わってみませんか!(小川記)



依然募集中江戸東京野菜チャレンジャー会員~共用の畑(約23㎡)を、みんなで育てます。夏は寺島なすを中心に、秋冬は江戸東京野菜を中心に、参加いただく皆さんで話し合って決定します。農園ナビゲーター(てらたまメンバー・主に土曜日参加)が話し合いをサポートします。年会費2,000円、1年間の参加制(~2027年2月末)1年ごとに改めて募集します。見学や一日体験も弾力的に受け入れます。申込は suebayashi@yahoo.co.jp まで

はじめました!!

第11回 花田さん(区画7-12)の場合



「はじめました」というお題をいただき、さて、どうしよう。前回掲載された原稿では、藍染めをやりたい、そのために畑に藍を植えたいと書いたのだが……見事挫折! というより、藍を植える適期にはもうすっかりその気をなくして……。若い時はあれもこれもと、やりたいことだらけだったけど、いざやるとなると面倒が先に立ち、モノになった経験なし。そもそも飽きっぽい。それでも、何か探さなくちゃ! そうそう、一人でも味噌づくりができるようになりたいと思って、大豆を注文したんだっただわ。去年、すべてお膳立てしてもらって作った味噌が感激的においしくて、今年の味噌づくり講座では、大豆を煮るところから参加。大鍋の横にへばりつき、じわじわ上ってくるアクをひたすら掬うこと2時間。頑張った味噌(の素)を袋に詰めて持ち帰り、完成する1年先を楽しみに、時々味噌(の素)を揉み揉みしているところです。さて、この味噌づくり、何年続くかな?



大豆に生麹と塩を入れる



一年間待つのだぞ

はじめるために!!

第12回 桜庭さん(区画3-12)の場合



音楽に集中するため、そしてもう一度自分の夢を目指すため、畑をお返ししました。コロナ禍で演奏がゼロになった2020年、音楽ではなく書類と戦う日々が増え、コンサート中止の払い戻しと、前年度に頑張った分の過去最高の税金と消費税の支払いが到来し口座が底を尽きかけ、やばい状況は何度もありました。それでも実際の心は強く、「負けてたまるか」と思う一方で、時間ができたことでプレッシャーから解放されている自分も感じていました。

そんな中、空きを待っていたたもんじ交流農園関係者からご連絡をいただき、抽選会に参加、一つの区画を任せていただけることになりました。そしてスタートした農園での畑作業。土に触れて、風を感じて、太陽を感じて…、心が癒されました。農園の皆さんとも仲良くさせていただき、当たり前のように自然に感動しながら、畑作業を楽しむことができました。

しかし去年は、家に戻る時間もないほど各地を飛び回り、帰ってきててもやるが多すぎて、畑を楽しめる状況ではなくなっていました。ちょうど更新の月が来たので、更新はしないと決めました。

畑を綺麗に戻し、毎年育てていた唐辛子の根っこを、全て取り除きました。荷物を片付けて皆さんにご挨拶をすると「いつでもまた遊びに来てくださいね」と嬉しい言葉をいただき、農園を後にしました。帰り道、大げさかもしれませんが、一つの時代が終わったような、一区切りついたような、そんな気持ちになり、なんか、ものすごく寂しい気持ちが込み上げてきました。ドンアルマス米も一昨年に卒業しているので、これで土に触れる機会はなくなります。何のため、は、はっきりしてるけど、やはりどこかお別れのように寂しい気持ちです。

今、大切なのは、音楽と向き合う時間、自分と向き合う時間、夢と向き合う時間。そこに集中していきます。本当にありがとうございました。



第13回 閑話休題～言葉と地名～

農園アドバイザー 水口均

シリーズ『江戸の食生活と野菜たち』



地域ごとの方言は良いものです。私は東京生まれですが神奈川県で育ちました。また、現在住んでいるところは多摩地域(明治26年までは神奈川県でした)です。したがって、標準語+関東方言で育ってきましたし、母親が水戸の出身で、北関東くらいまでの方言はなんとなく理解できます。余談ですが、好きな方言は静岡弁だったりします。ここでは方言ではなく、地名のことを書きたいと思います。

地名は、もともとその地域に根差した特徴を表していましたが、明治以降の地名変更で、まったく面影のなくなった場所もあります。しかし、住所ではなく地域(エリア)の呼び名には、北海道を除いて、概ね京都に近いところの地域名に「上」がつくというルールがあります。現在は東京が中心なので、交通機関の上りはすべて東京方面ですが、江戸時代まではすべて京都が中心であったからです。ところが、場所によっては「？」なところがあります。これは、京都から来る物資が船を使って入ってきて、陸路より早かったため、より京都から早く着ける港のある地域に「上」の字があてられたものです。そんな見方で地図を見ても、歴史を感じられるかもしれません。

すみ里キャラバン仲間「里のたみ」情報～まちに、里地里山の芽を届けにゆく

東白鬚公園	募集:「寺島なすの歴史と栽培について学ぶ&土づくり」フィールドワーク&座学参加者(何名でも) ～東白鬚公園では、今年が開園40周年を迎え公園内でのこれまでの花壇に寺島なすはじめ野菜も共生させる計画です。この機会と一緒に歴史を学び、食育も兼ねた食事会で交流を深め防災を学びませんか? ～また、本イベントに限らず広くボランティア(何名でも)を継続募集しております。 募集:「花壇樹木管理」「除草落枝回収」「イベント補助」(何名でも) 問い合わせはいつでも、東白鬚公園サービスセンター03-3614-4467(9:00～17:00)
-------	---

農園部・農園会員のランチ会:3/29(日)農園部活動のあと、ランチ会を計画しています。ウッドデッキをお昼過ぎまで使わせて頂きます、水口アドバイザーご指導日:4/12(日)・5/10(日)、農園部作業日:毎週日曜8:30～、すみだ環境フェア:6/13(土)14(日)終日(オリナス錦糸町)～昨年同様「すみ里プロジェクト」「江戸東京野菜」等環境に関するテーマでのプレゼン発表と来場者とりわけお子様向け「似顔絵」「クイズ」を企画しております。楽しい企画のアイデア募集中です。



たもんじ交流農園便り
No.96 般 2026.3.27 発行
題字 田村風来門
編集 末林和之



HomePage

てらたま協議会

(NPO法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)
問い合わせ先 小川 剛(080-3421-3115)
▲セブン-イレブン記念財団 (2018年2020年に助成金を頂きました)



FaceBook